

回	テーマ	著者名	書籍名	出版社名	出版年
第1回	近代化と開発援助	佐藤寛	『開発援助の社会学』	世界思想社	2005
第2回	オリエンタリズムと開発援助	エドワード・サイード	『オリエンタリズム』(上・下)	平凡社ライブラリー	1986
第3回	マクドナリゼーションと開発援助	ジョージ・リッツア	『マクドナルド化する社会』	早稲田大学出版部	1999
第3回	マクドナリゼーションと開発援助	ジョージ・リッツア、丸山哲	『マクドナルド化と日本』	ミネルヴァ書房	2003
第3回	マクドナリゼーションと開発援助	ジョージ・リッツア	『無のグローバル化—拡大する消費社会と「存在」の喪失』	明石書店	2005
第3回	マクドナリゼーションと開発援助	ジェームズ・ワトソン	『マクドナルドはグローバルか—東アジアのファーストフード』	新曜社	2003
第4回	民俗学と開発	柳田国男	『遠野物語』	角川文庫	1910
第4回	民俗学と開発	宮本常一	『ふるさとの生活』	講談社学術文庫	1986
第4回	民俗学と開発	赤松啓介	『差別の民俗学』	ちくま学芸文庫	2005
第5回	開発援助と環境	栗原彬編	『証言水俣病』	岩波新書	2000
第5回	開発援助と環境	石弘之編	『環境学の技法』	東京大学出版会	2002
第5回	開発援助と環境	桜井厚・好井裕明編	『差別と環境問題の社会学』	新曜社	2003
第5回	開発援助と環境	アル・ゴア	『不都合な真実』	ランダムハウス講談社	2007
第5回	開発援助と環境	レイチェル・カーソン	『沈黙の春』	新潮文庫	1974
第6回	フェアトレードと社会学	マイケル・バラット・ブラウン	『フェアトレード—公正なる貿易を求めて—』	新評論	1998
第6回	フェアトレードと社会学	ジョゼフ・スティグリッツ、アンドリュウ・チャールトン	『フェアトレード—格差社会を生まない経済システム』	日本経済新聞出版社	2007
第6回	フェアトレードと社会学	デイビッド・ランサム	『フェア・トレードとは何か』	青土社	2004
第6回	フェアトレードと社会学	鶴見良行	『バナナと日本人』	岩波新書	1982
第6回	フェアトレードと社会学	村井吉敬	『エビと日本人』	岩波新書	1988
第6回	フェアトレードと社会学	出雲公三	『バナナとエビと私たち』	岩波ブックレット	2001
第6回	フェアトレードと社会学	ナン・リン	『ソーシャル・キャピタル—社会構造と行為の理論』	ミネルヴァ書房	2008
第6回	フェアトレードと社会学	N・アポフ他	『農業開発における社会関係資本の役割—スリランカ、ガル・オヤ農民組織の生産性』	『のびゆく農業:世界の農政』no.970, pp.7-39	2006
第6回	フェアトレードと社会学	フランシス・フクヤマ	『「信」なくば立たず—「歴史の終わり」後、何が繁栄の鍵を握る』	三笠書房	1996
第7回	公共性と正義	斉藤純一	『公共性』	岩波書店	2000
夏休み		ウィリアム・イースタリー	『エコノミスト南の貧困と戦う』	東洋経済新報社	2003
夏休み		マイケル・エドワーズ	『フューチャー・ポジティブ—開発援助の大転換』	日本評論社	2006
第8回	贈与と援助	井上俊、上野千鶴子、大澤真幸、見田宗介、吉見俊哉	『贈与と市場の社会学』	岩波書店	1996
第9回	ケイパビリティと開発援助: どうしたらセンの議論はより良くなるか	アマルティア・セン	『不平等の再検討—潜在能力と自由』	岩波書店	1999
第9回	ケイパビリティと開発援助: どうしたらセンの議論はより良くなるか		Money vs. Happiness: Nations Rethink Priorities	Newsweek	
第10回	途上国日本と開発援助	大牟羅良	『ものいわぬ農民』	岩波新書	1958
第10回	途上国日本と開発援助	上野千鶴子編	『主婦論争を読む(1)』	勁草書房	1982
補講		松岡雅裕	『パーソンズの社会進化論』	恒星社厚生閣	1998
第1回		桜井哲夫	『「近代」の意味—制度としての学校・工場』	NHKブックス	1984
第1回		今西錦司	『進化とは何か』	講談社学術文庫	1976
第1回		アンソニー・ギデンズ	『近代とはいかなる時代か—モダニティの帰結』	而立書房	1993
第1回		竹内久美子	『浮気人類進化論—きびしい社会といいかげんな社会』	文藝春秋	1998
第1、2回		梅棹忠夫	『文明の生態史観』	中公文庫	1974
第1回		W.W.ロストウ	『経済成長の諸段階—一つの非共産主義宣言』	ダイヤモンド社	1961
第1回		William Essterly	The Elusive Quest for Growth: Economists' Adventures and Misadventures in the Tropics	MIT Press	2001
第1回		N.Gregory Mankiw	Principles of Macroeconomics	Worth Publishers	2007
第1、2回		クリストバル・カイ	『ラテンアメリカ従属論の系譜—ラテンアメリカ: 開発と低開発の』	大村書店	2002
第1回		富永健一	『近代化の理論 近代化における西洋と東洋』	講談社学術文庫	1996
第1回		上田晶子	『ブータンにみる開発の概念—若者たちにとっての近代化と伝』	明石書店	2006

回	テーマ	著者名	書籍名	出版社名	出版年
第1回		ジャン・ボードリヤール	『象徴交換と死』	ちくま学芸文庫	1976
第1回		浅野智彦編著	『社会学のことが面白いほどわかる本』	中経出版	2002
第1回		牟田和恵	『戦略としての家—近代日本の国民国家形成と女性』	新曜社	1996
第1回		東京大学公開講座	『進化』	東京大学出版会	1988
第1回		ジェレミー シーブルック	『世界の貧困—1日1ドルで暮らす人びと』	青土社	2005
第1回		長谷川昭彦	『近代化の中の村落—農村社会の生活構造と集団組織』	日本経済評論社	1997
第1回		清水幾太郎編	『世界の名著36 コント スペンサー』	中央公論新社	1970
第1回		古島敏雄	『台所用具の近代史』	有斐閣	1996
第1回		鶴見和子、市井三郎編	『思想の冒険』	筑摩書房	1974
第1回		村井久二	『コントとマルクス—コント=マルクス型発展モデルの意義と限』	日本評論社	2001
第2回		姜尚中	『オリエンタリズムの彼方へ—近代文化批判』	岩波書店	2004
第2回		ジョン・W・ダワー	『容赦なき戦争—太平洋戦争における人種差別』	平凡社ライブラリー	2001
第2回		エドワード・W・サイード、タリク・アリ	『サイード自身が語るサイード』	紀伊國屋書店	2006
第2回		バーナード・ルイス	『イスラム世界はなぜ没落したか？ 西洋近代と中東』	日本評論社	2003
第2回		Immanuel Wallerstein	The Decline of American Power: The U.S.in a Chaotic World	The New Press	2003
第2回		鶴見和子、武者公路公秀	『複数の東洋/複数の西洋—世界の知を結ぶ』	藤原書店	2004
第2回		内藤正典	『ヨーロッパとイスラーム—共生は可能か—』	岩波新書	2004
第2回		青木保	『異文化理解』	岩波新書	2001
第2回		田中彰	『明治維新と西洋文明—岩倉使節団は何を見たか—』	岩波新書	2003
第2回		深沢徹編	『オリエント幻想の中の沖縄』	海風社	1995
第2回		岡崎照男訳	『パラギ〜はじめて文明を見た南海の酋長ツイアビの演説』	立風書房	1982
第2回		ミシェル・フーコー	『言葉と物』	新潮社	1974
第2回		ミシェル・フーコー	『知の考古学』	河出書房	1981
第2回		ガンディー	『わが非暴力の闘い』	第三文明社	2001
第2回		木名瀬高嗣	「表象と政治性—アイヌをめぐる文化人類学的言説に関する素」	『民族学研究』62—1	1997
第2回		ビル・アシュクロフト、バル・アルワリア	『エドワード・サイード』	青土社	2005
第2回		サミュエル・ハンチントン	『文明の衝突論』	金星堂	1998
第2回		禰永信美	『幻想の東洋—オリエンタリズムの系譜』	青土社	1996
第2回		太田好信	『トランスポジションの思想』	世界思想社	1998